

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 戸室小学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
	2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
	3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 高峰 裕子

学校教育目標	学校経営の方針
<p>「夢に向かって共に学び 心豊かにたくましく生きる 戸室の子」 ○思いやりのある子に育てます (相互尊重・共生) ○目標に向けて、ねばり強く考え、学習や仕事に励む子どもに育てます (知性・勤勉) ○地域を大切に、地域の人々に学ぶ子どもに育てます(地域愛) ○進んであいさつができる子どもに育てます (礼儀) ○体を鍛え、健康・安全を大切に育てます (体力・健康)</p>	<p>① 国・県・市の方針から ○教育基本法、学校教育法及び学習指導要領に掲げられている目標、神奈川県教育委員会が策定した「神奈川教育ビジョン」、厚木市教育委員会の基本目標「挑戦」「共生」「創造」を達成することをめざし、全ての教育活動を展開します。 ○「生きる力」の理念を具体化し、持続可能な社会の創り手として新しい時代に求められる資質や能力の育成をめざします。 ①知:確かな学力 ②徳:豊かな心 ③体:健やかな体 ② 学校教育目標の具現化に向けて、「夢・学び力」「社会力」「健康力」を育成する視点で計画的・組織的に教育活動の質の向上を図ります。(カリキュラム・マネジメント) 「夢・学び力」では、一人一人の児童が目標に向けて、自分の持つ資質や能力を確実に伸ばしていくことをめざします。 「社会力」では、様々な能力・適性・家庭や国籍等の背景の異なる児童が、学校という集団生活の中で実践的・協働的な力を伸ばし、地域や人とのつながりの中で成し遂げる喜びを実感できる学びをめざします。 「健康力」では、児童が自らをコントロールし、心身ともに健康で安心して生活できることを基盤とした学校・学年・学級づくりをめざします。</p>

今年度の重点目標

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○安心・安全な学校・学級づくり ○学習意欲を高める学校づくり～知的好奇心を高める ○支援教育体制を整備し、一人一人の児童に寄り添う指導の一層の充実～インクルーシブ教育の充実～ | <ul style="list-style-type: none"> ○児童の自主的・実践的な態度の育成 ○基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と家庭学習の習慣化 ○ICTを活用した学びづくり |
|---|---|

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
安心・安全な学校・学級づくり	3	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用、手洗い、うがい、黙食、換気の徹底と、毎朝の体温測定を実施した。 ・避難訓練・不審者対応訓練・交通安全教室を実施した。 ・不審者対応訓練や食物アレルギー発症に対応する学校事故対応訓練と研修会を実施した。 ・地域やPTAと連携を取りながら、登下校における安全指導を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を日常的に行った結果、児童の習慣化とともに児童の感染症対策への意識が向上した。 ・予告なしの避難訓練では課題が見られた。 ・警察に助言をいただきながら、児童と不審者対応訓練をし、退避行動の練習ができた。 ・食物アレルギー発症時の対応を中心に、エピペン講習会や行動訓練・心肺蘇生法訓練を行った。万が一を想定した実践的なスキルが身に付いた。 ・登校班については、保護者からの評価も高く、継続していく方向である。下校の仕方に課題があるので教員の見守りを行っていく。危険箇所についても継続的に調査をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策については、市の方針に基づき、安心して学校生活がおこなえるように実施していく。 ・避難訓練では、個人の判断力・行動力が高まるよう、多様な場面設定での訓練を行う。 ・学校事故発生時の対応訓練や研修会は、適切な対応や連絡体制が確立するよう、毎年継続して行う。 ・登下校時における安全について、個々の意識を高められるような指導を継続して行う。

<p>特別活動の充実による児童の自主的・実践的な態度の育成</p>	<p>2・3</p>	<p>・児童会活動を通して、児童の自主的な活動として「戸室フェスティバル」「ハッピースマイルコンサート」や縦割り活動の「フレンドタイム」を実施した。</p>	<p>・「戸室フェスティバル」や「ハッピースマイルコンサート」では、自主的に活動する姿が見られた。保護者からは児童の話から生き生きと活動していた様子がうかがえたとの高評価の意見が数多くだされた。 ・縦割り活動を昨年度より多くすることができた。</p>	<p>・代表委員会などで話し合う議題については、各学級でも事前に十分な話し合い活動ができるように、活動の場を設定する。 ・縦割り活動の機会を増やし、関わり合いの中で児童の主体性・社会性を育てていきたい。</p>
<p>学習意欲を高める授業づくり</p>	<p>1・2・3</p>	<p>・全員参加の授業づくりを目指し校内研修を進めた。 ・授業力向上を目指したメンター研修を実施した。 ・クロムブックの活用について研修をし、授業での積極的な活用に努めた。 ・指導に生かすため、全国・学力状況調査の問題を教員全員が解いた。</p>	<p>・感染症対策の緩和にともない、学び合いの授業も増えてきている。タブレットを活用しての意見交換も定着してきている。 ・全員参加の指導法を教科指導に取り入れることができた。 ・メンター研修でクロムブックの活用法を研修し、教師・児童ともに活用する場面が増えた。</p>	<p>・自分の考えを図や文章にして説明する力や、お互いの意見をつなげ、まとめる力を身につけさせていく。 ・「分かる授業」づくりを目指し、今年度同様、同僚間で指導技術を高め合うため情報交換を行うメンター研修を継続して行っていく。 ・タブレットの課題（活用法・ルール・情報モラルなど）の検討を続けていく。</p>
<p>基礎的・基本的学習内容の確実な習得と家庭学習の習慣化</p>	<p>1・3</p>	<p>・朝学習でドリル学習を行い、基礎・基本の習熟を図った。 ・「算数・国語ウィーク」の実施をした。 ・「漢字・ひらがなウィーク」を実施し、漢字の習得率の向上に努めた。 ・家庭学習の充実のため、家庭へのはたらきかけを積極的に行った。</p>	<p>・「算数・国語ウィーク」として、毎学期2週間ずつ、既習内容をふりかえる学習を全校で行うことにより、個々の学習の習熟に役立ち、集中して課題に取り組む姿勢が見られた。 ・タブレットでeライブラリーを活用し、基礎・基本の定着を試みた結果、成果が表れた。</p>	<p>・意欲的に取り組む姿が見られるが、基礎・基本の定着ができる取組をさらに検証していく。 ・漢字学習について、より定着できる学習法について検討し、家庭学習での取組をはたらきかけていく。 ・ICTを活用し、より分かる授業づくりを目指す。</p>

<p>支援教育体制を整備し、一人一人の児童に寄り添う指導の一層の充実 ～インクルーシブ教育～</p>	<p>1・2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブな学校環境を目指し、支援が必要な児童への対応を積極的かつ計画的に行った。 ・一貫性のある、チームとしての児童指導を実践した。 ・教育相談の充実を図り、迅速な対応に努めた。 ・家庭との連携を密に行った。 ・関係諸機関等との連絡調整を行った。 ・ピンクシャツデーの取組を行い、いじめを許さない学校風土づくりに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童指導担当を中心に、「じどうのやくそく」や学校生活のルールについて、常に全職員で共通理解をしながら児童指導に取り組んできた。その結果、児童の規範意識を高めることができ、落ち着いた学校生活を送ることができた。 ・日頃の児童の様子をよく見ると共に、児童相談月間、教育相談、生活アンケート等様々な角度から児童の実態を把握した。問題が生じた時には教育相談コーディネーターを中心に家庭との連携をはかり、必要に応じて教育相談を行い、場合によってはスクールカウンセラーにも対応してもらい、早期の解決に努めた。 ・支援が必要な児童については、ケース会議等を開き、共通理解をはかり、家庭や関係諸機関と連絡を取り合って迅速に対応することができた。 ・ピンクシャツデーの取組で、いじめに対する児童の心を育てるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「じどうのやくそく」を教室掲示し、職員が共通理解のもと、全校で同じ指導ができるようにする。 ・児童指導について、共通理解をはかり、一貫した指導を続け、チームで迅速に対応する。 ・教育相談の体制をさらに整えて、保護者との相談を充実させる。 ・いじめについてのアンケートを実施し、いじめの防止へと繋げていく。ピンクシャツデー等の取組で児童のいじめ防止の意識を高める。 ・支援が必要な児童については、家庭との連携、関係諸機関との連絡、調整を行う。 ・心の相談室(ほっとルーム)を充実させていく。
<p>ゆとりと熱意に満ちた教師と教師集団(学校と家庭・地域の連携) 情報発信</p>	<p>1・2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の指導力向上とチーム戸室としての連携に努めた。 ・保護者や地域との連携を図った。 ・HPや学校だよりの充実を努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究では全員参加の授業づくりの研究を行い、若手育成と総括教諭や学年リーダーが協力して活動ができた。 ・登下校などの安全面や児童の様々な活動に地域や保護者が積極的に参加し、職員との連携もできた。 ・学校だよりにインクルーシブ教育の記事を毎回載せ、学校理解に繋がった。 ・緊急時の連絡メールは保護者への周知に役にたった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のチームワークの強化と、教職員の指導力向上に向け、メンター研修を行い職員間の共通理解を進めていきたい。 ・職員の多忙化を改善するために、業務の効率化を図り、自己研鑽の時間も確保できるようにしたい。 ・地域との連携は学校運営協議会とも協力して地域との交流を深めたい。 ・保護者や地域との連携がより深まるよう、学校理解に向けHP発信に力を入れたい。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

【1安心・安全な学校・学級づくり】

このコロナ禍で学校が子どもたちを優先して安全・安心に配慮し工夫し運動会、参観や修学旅行等の行事を実施した事が評価された。 コロナ後も、従来の再考も含め新しい形での活動が展開されることを希望する。

小学生から危機管理を学ぶのは大変良いことである。大人になって、地震や風水害等の発生時に家を守り、地域を救うと考える。

【2自主的・実践的な態度の育成】

戸室小では「ハッピースマイルコンサート」や「戸室フェスティバル」など特別活動が充実している。ぜひこのまま続けてほしい。

主体的で対話的な深い学びという3本の柱への道筋を具体的にどのように取り組みされるのか、楽しみである。

【3学習意欲を高める授業づくり】

授業参観などで見る範囲では、昨年・一昨年と比べても積極的な展開がされ始めている様に映る。これら新たな取組は すぐに定着するものではない。形式的な定着だけを急ぐあまり、ついていけない児童が出ぬ様な配慮もお願いしたい。

タブレット端末の活用が授業の中でみられた。今後、外部講師や体験的学習も増えていくことが予想され楽しみである。

避難所運営委員長と関係自治会長に講師を依頼した4年防災教室は、地域人材活用の視点からも実施できてとても良かった。今後の年間計画に位置づけて実施できると良い。

【4基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と家庭学習の習慣化】

基礎的・基本的な学習内容の確実な習得は、児童と教職員で共にA評価となる様、日々の授業をお願いしたい。

家庭学習は、学校より家庭での指導がウエイトを占めるので、保護者の理解を求めるよう努力が必要。また、子ども自ら家庭学習をする習慣がつくよう根気よく指導してほしい。興味のあること、好きなことを勉強することでもよいと思う。

【5支援教育体制の充実】

学校だよりの「トムクルーシブ通信」を通して、戸室小学校が支援教育に力を注いでいる様子が理解できる。地域の人間として協力できるものはしていきたい。

インクルーシブ教育への取組が評価を高めていると感じる。今後は地域や保護者へのより深い理解を広めていく中核となることを望む。

一人ひとりの児童に寄り添う指導は、教育者の基本と思われるので、評価が高い事から安心である。あいさつが項目でやや低い結果だが、防犯パトロールで巡回しているときに、児童からありがとう等の声かけがあるので、安心してほしい。

【6ゆとりと熱意に満ちた教師と教師集団】

先生方は日々一生懸命、児童や家庭、学校のために力を発揮してくれている。その思いや熱意の素晴らしさに感心させられるが、その分ゆとりについては、まだまだ課題も多いと思う。ゆとり確保のためには、学校だけではなく、市、地域など他からの力添えによって、負担を減らしていけたらと思う。いつも様々な熱意と努力に感謝している。

【7情報発信】

HPで行事の様子を発信するのはとても良い。

時宜を得た学校だよりの内容、インクルーシブ教育の話題、連絡メールや不審者情報などのリアルタイムでの発信は、在校児が不在の運営委員にも状況が即時にわかり有効であった。SDGSの発信も必要かもしれない。

今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針

感染症対策として様々な制限のある中で、「子どもたちの成長に必要な学校でしか学べない教育」を大切に、取り組んできた。今年度の学校経営における重点目標は、概ね達成できたと判断している。次年度は、さらにより良い学校づくりをめざし、学校評価をもとに教育活動を再検討し全教職員で取り組んでいく。

- ・支援教育の充実
- ・インクルーシブ教育推進のための校内支援体制の継続
- ・校内研究(全員が参加できる授業づくり～数学的活動を通して～)の成果を生かした学習指導
- ・交通安全、けがの予防等安全教育の充実
- ・学習意欲を高める授業づくりと学力向上の一層の推進
- ・人材育成